

# 物語と説明

## Narrative and Explain

森田 均\*<sup>1</sup>  
Hitoshi MORITA

\*<sup>1</sup> 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科  
Department of Info-Media Studies, University of Nagasaki

This article proposes the new method that researches the relation between the text and the society by using Narrative, Explain, and Navigation for the key words.

### 1. はじめに

筆者はこれまで、読者或いは作者側のコミュニケーション・モデルを示すことによってそれぞれの概念装置を示し、フィールドとしてのテキスト、作品としての実世界というコンセプトを提示して文学や物語の構造的な研究を行って来た。本発表では、従来の成果に基づいて物語ること、説明することにナビゲーションという概念を落とし込むことによって行為の面から作者と読者の問題、テキストと実世界の関係等を再検証する。さらに、テキストから実世界への関連を重視した新たな研究手法を提案する。

### 2. 研究の背景

#### 2.1 グラフ, 地図, 樹状図

これまで[Moretti 05]に倣って、文学の研究にグラフと地図と樹形図を持ち込む試み[森田 07]を行ったが、実世界とテキストとの間に関連付ける具体的なキーワードは見当たらなかった。しかし、実世界を見渡してみると、カーナビや携帯での道案内のように地図は GIS, GPS によって土地とデータがタグ付けされている。それならば、GIS, GPS を自分の研究に導入してみよう、と考えた。まずは ITS を情報社会論と接合させ、次の段階で記憶と記録、記憶と物語の研究に GIS, GPS を持ち込むこととする。以下で新しい研究の構想と展望を述べる。

#### 2.2 ナビゲーション

高度道路交通システム(ITS: Intelligent Transport System)は自動車と道路の双方を情報通信技術によって制御することで移動や運搬の手段を安全性経済性と環境に配慮したネットワークへと変貌させた。ITS による開発やシステム構築においては、問題解決と開発目標を明確化するために必ず開発対象地域のコミュニティ形成にも関与することになる。これは「つくる」側からの実践である。一方で情報社会論の研究手法は、情報通信の高度化が進展する社会を観察する「使う」側からの参与であった。本研究では、研究者・官公庁・地域社会等の様々なコミュニティを参与的に観察し、社会実験においてはサービスの提供側として実践することによって ITS の手法を取り入れ、積極的に社会と関わる能動的な研究方法・手法を情報社会論へもたらすことを目的とする。

### 3. コンテンツと社会

本研究は、計算文学理論を基盤としたハイパーテキスト小説の開発を通じてコンテンツ研究の手法を検証した [森田 07], 地上波テレビ放送を録画・内容分析し、原爆に関するメディア・ランドスケープを明らかにした [森田 09], テキストとしてのフィクションと社会との関係性を検討した [Morita 10]に続けて、コンテンツと社会との関わりに新たな研究手法をもたらすことを目的としたものである。

#### 3.1 社会との関わり方

コンテンツと社会との関係を手掛かりに行って来た上記の研究に対して、本研究は異分野の手法や知見を援用すること、情報通信技術によって変容する地域社会と能動的にかかわることがその特徴である。具体的には a)長崎 EV&ITS プロジェクトにおける参与観察の機会としてのワークショップ[渡部・他 11] [森田 11a] [森田 11c], b)長崎市 LRT ナビゲーション推進協議会における路面電車位置情報配信システム事業の実践[森田 11b] [森田 11c]の記録をデータとして分析する。

#### 3.2 特徴的な手法

本研究は、参与と実践という能動的な方法を用いて、技術決定論、社会決定論の双方とも異なる新たな情報社会論の構築を目指すものである。具体的には、参与と実践の記録から事項を分析して、社会の情報化の進展と照合し、技術・社会・制度・思想の観点からネットワークによる情報化社会の形成過程を描き出すことが出来る。

#### 3.3 メタファーとしてのハイウェイ

情報社会論の研究は、道路や鉄道をネットワークのメタファーとして用いながらもあくまで情報化以前の存在として位置付けていた。ところが、自動車工学は CAN (Controller Area Network) によって自動車そのものを制御工学は ITS(Intelligent Transport System) によって道路や鉄道を知能化し、人・物の流れと情報の流れを一体化させている。情報社会論がインターネットと社会との共生や融合を目指すならば、こうした高度に知能化した交通網を再度参照する必要がある。ITS は、GIS(Geographic Information System), GPS(Global Positioning System)等の地理情報、測位システムという要素技術を取り入れ、産学官で議論を重ね、その成果を実装して社会へ提供している。

連絡先: 森田均, 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科, 851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1, 095-813-5105(研究室直通, Fax 兼用), morita@sun.ac.jp

## 4. 新しい研究手法の獲得を目指して

### 4.1 既存の手法との違い

本研究の着眼点や手法のアイデアが斬新であるのは、このように物流・交通を情報化・知能化した ITS の手法を導入して情報社会論が研究分野として社会に貢献することが可能か検討することを最終的な目的としているということである。異分野に学び、道路や鉄道が高機能化されるコミュニティへの参与と実践によって参与観察、実践という情報社会論にとっても馴染みの手法を活性化させる。これは、学問分野としての ITS への参与観察でもある。活用するデータや実績は本研究の代表者が主体的な役割を果たした長崎県や長崎市が関与する既存のプロジェクトから得られたものである。こうした入り組んだ状況の中から客観的な理論と主体的な社会貢献という相反する成果を同時に得ようとするところにチャレンジ性がある。

### 4.2 方法論

このように、データの取り扱い、分析手法の獲得と社会貢献の実践、ITS 分野としてのプロジェクト終了後に情報社会論分野から評価を行い、これを新たな研究手法として活用する。具体例として活用するプロジェクトでは、主に 2010 年に筆者が自ら参与と実践を行っている。同じ時期に、実践と評価は不可能であり、異分野の手法を行いつつ応用するというのも難しい。また、それぞれのプロジェクトは多数の研究者・技術者・行政の担当者に関与する大規模なものである。計画と実施までを含めるのならば、本来は大規模な基盤研究で行うものであるが、分析と評価を切り離すことによって小回りが利き、再検討が可能で、新たな方向を目指す斬新な方法論を採用することが出来る。通常ならば「計画と実施」、「分析と評価」が分断されている場合、主体となって関わる研究者は別人となり、双方を架橋することが困難となる。本研究の場合は、前提となる「計画と実施」も筆者が行っていることが大きな特徴である。もちろん、既存プロジェクトの成果活用については内諾を得てはいるが、それぞれの設置主体等と十分な協議を行い、適切な措置を取る。このように、時間的にも、研究分野としても異なることから最終的には手法の導入や接合が可能となり、本研究の目的を達成することが出来ると考えられる。工学分野におけるロボット研究は、「ロボット工学」(Robotics)という用語を SF 小説[Asimov 50]起源としている。そればかりかロボットのコンセプトも同じ作品集の冒頭に掲げられた「三原則」に配慮しており、フィクションが現実を牽引する好例となっている。本研究においては、人文社会科学の分野として[北森 08]で登場人物が提案した「仮想民俗学」に着目しておきたい。この点は、[Morita 10]を引き継ぐものでもあり「ヴァーチャル・エスノグラフィー」と対峙させることも想定している。

## 5. 関連研究

ITS とは、「人と道路と自動車の間で情報の受発信を行い、道路交通が抱える事故や渋滞、環境対策など、様々な課題を解決するためのシステム」と定義されている。(ITS Japan : <http://www.its-jp.org/about/>)平成 8 年策定の「ITS 推進に関する全体構想」によりカーナビゲーション、ETC、安全運転支援、交通管制、道路管理、公共交通運行管理、商用車運行管理、歩行者支援、緊急車両管理の 9 分野で研究開発が推進された第 1 世代に続き、平成 16 年に ITS 世界会議が名古屋で開催されて以降の第 2 世代[牧野 10][牧野・他 11]では安全・安心、環境・効率、快適・利便の 3 つを基本概念として、平成 25 年に東京で開催予定の ITS 世界会議を目標として開発や実用化に

向けた研究が進められている。[川嶋 07]では、日本における ITS の取り組みを草の根段階から紹介している。[熊谷 06]は、地域における大学の役割を考える上で参考にすべき先例である。路面電車についても[松田 07][松本 05]等の研究成果が産まれている。一方で、人文社会科学系のまちづくり関連研究アプローチでは、道路の中の地域交流、地域振興拠点として道の駅に着目するもの[関満 11]、広義にはフィールドワークの実践報告ではあるが、地域振興や大学の地域貢献の観点から参考にすべきもの[安溪・安溪 09]がある。コンテンツ研究の立場からは、[有川 11]はライトノベルだが地域開発や観光分野で研究を行う上で今後非常に重要な文献となる。ITS 関連研究は、研究分野が多岐に渡り研究者の交流が盛んであることは、上記の事例の他にも、[須田 11]で論文題名通りの興味深い試みが報告されている。

【付記】本研究は、「フィクションから言説と事項を抽出して構築するモデルに基づく情報社会論の試み」(日本学術振興会科学研究費補助金平成 21～23 年度挑戦的萌芽研究)による研究成果の一部である。

### 参考文献

- [安溪・安溪 09] 安溪遊地・安溪貴子: 大学生をムラに呼ぼう、みずのわ出版, 2009.
- [有川 11] 有川浩: 県庁おもてなし課, 角川書店, 2011.
- [Asimov 50] Asimov, I.: I, Robot, Gnome Press, 1950.
- [川嶋 07] 川嶋弘尚・監修: ITS 新時代 スマートウェイがつくる世界最先端の道路交通社会, 日経 BP 社, 2007.
- [北森 08] 北森鴻: 写楽・考, 写楽・考 蓮杖那智フィールドファイルⅢ, 新潮文庫, pp.171-305, 2008.
- [熊谷 06] 熊谷靖彦・他: 草の根 ITS の推進, 高知工科大学紀要 3(1), 高知工科大学, pp.185-193, 2006.
- [牧野 10] 牧野浩志: 第 2 世代 ITS の普及に関する研究について, 生産研究 62(2), 東京大学, pp.27-33, 2010.
- [牧野・他 11] 牧野浩志・他: 長崎エビッツプロジェクトにおける電気自動車の普及とローカル観光に活用できる ITS 車載器の開発について, 生産研究 63(2), 東京大学, pp.195-201, 2011.
- [松田 07] 松田博和・他: 路面電車の混空情報提供による利用者行動変化に関する研究, 土木計画学研究・講演集 35, 土木学会, CD-ROM(68), 2007.
- [松本 05] 松本修一・他: ノーガード電停の対策に関する取組み, 土木計画学研究・講演集 31, 土木学会, CD-ROM(44), 2005.
- [Moretti 05] Moretti, F.: Graphs, Maps, Trees Abstract Models for a Literary History, Verso, 2005.
- [森田 07] 森田均: 文学テキストのハイパーテキスト変換, 雄松堂, 2007.
- [森田 09] 森田均: テレビ番組分析手法の精緻化へ向けて — 平和式典と長崎くんち —, 国際情報学部研究紀要第 10 号, 長崎県立大学, pp.117-131, 2009.
- [Morita 10] Morita, H.: From the Real World to a Literary Text, Proceedings of the 21th Congress of the International Association of Empirical Aesthetics, CD-ROM, 2010.
- [森田 11a] 森田均: 電気自動車と高度交通システムで実現させる未来型ドライブ観光 — 長崎 EV & ITS が五島列島で描く夢, ソフトウェア・シンポジウム SS2011 招待講演, ソフトウェア技術者協会, 2011.

- [森田 11b] 森田均:「3G 回線を活用した路面電車・利用者双方  
向位置情報配信システムによる歩行者移動支援サービス」  
のご紹介, 総合交通メールマガジン第 40 号, 国土交通省,  
2011.  
(URL = [http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-  
magazine/1110idousienn.pdf](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-<br/>magazine/1110idousienn.pdf))
- [森田 11c] 森田均: まちづくりに貢献するナビゲーター 長崎  
EV&ITS の ITS 搭載カーナビから長崎電気軌道の「ドコネ」  
システムへ, 国際情報学部研究紀要第 12 号, 長崎県立大  
学, pp.181-193, 2011.
- [関満 11] 関満博・酒本宏:道の駅／地域産業振興と交流の拠  
点, 新評論, 2011.
- [須田 11] 須田義大・他:先進モビリティにおける分野融合研究  
の試み, 生産研究 63(2), 東京大学, pp.3-8, 2011.
- [渡部・他 11] 渡部康祐・鈴木高宏・松本修一・森田均:長崎  
EV&ITS における未来型ドライブ観光の実現に向けた地域  
発 ITS コンテンツ・サービス提供システムの構築, 土木計画  
学研究・講演集 43, 土木学会, CD-ROM(50), 2011.